

まえがき

近年、我が国の水産業において養殖業は重要な地位を占めるようになり、安全な水産物を安定的に供給する上で大きな役割を果たしています。しかし、一方では過密な飼育や残餌の堆積等により養殖環境が悪化し、疾病が多発するようになってきています。また、最近では養殖用の種苗が海外から輸入されることも多く、これまで我が国では発生報告の例がない疾病が持ち込まれ、まん延する恐れが高まっています。

このような状況に対応するために水産庁では、水産資源保護法の一部を改正して特定の魚種・疾病を対象とした輸入防疫制度を、さらには持続的養殖生産確保法により漁場改善および国内防疫制度を設け、我が国の養殖業の安定的発展を目指しておりますが、これらの制度が的確に運用されるためには、魚介類の疾病、診断、治療、防疫対策等に関する科学的知見の集積、適切な技術の開発が必要となります。

当協会では、水産庁の委託を受けて魚類防疫センター事業の一環として、増養殖現場において大きな被害を与え、早急な原因の解明や防除対策等が求められている疾病を中心に、診断、治療、予防並びに防疫等に関する技術の開発研究を養殖研究所の学術的指導・助言を得つつ、都道府県水産試験場や関係大学に委託して実施しました。

本書は、平成11年度に実施しました研究成果を取りまとめたもので、増養殖現場での診断、防疫指導等に活用されるとともに、各水産試験場等での研究の一助となることを期待します。

なお、本技術開発研究の推進にご指導いただいた養殖研究所並びに研究に参加いただいた都道府県水産試験場、大学の関係各位に深く感謝申し上げます。

平成12年3月

社団法人 日本水産資源保護協会
会長理事 木村 邦雄